

【区市町村教育委員会の取組】

自治体名

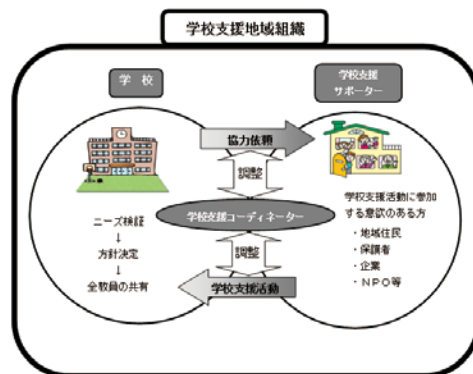
福生市

◆事業方針（計画等における位置付け）

学校、家庭、地域が一体となって子供を支える体制を整えることを目的としており、第2期福生市生涯学習推進計画(修正後期)にて、新たに導入されるコミュニティ・スクールと学校支援地域組織との連携を強化することを定めている。

◆地域学校協働活動（学校支援活動を含む）の実施体制（特徴・工夫等を含む）

市内全小・中学校に「学校支援地域組織」を設置している。学校はニーズを検証し、方針を決定した後、全教員に情報共有を行い、学校支援コーディネーターに依頼する。学校支援コーディネーターは学校から依頼を受けたら、学校支援活動に参加する意欲のある地域住民や保護者、企業等の学校支援サポーターに協力依頼を行い、日程等を調整する。調整後、学校支援サポーターは学校支援活動に参加するという流れで行っている。



◆広報活動（パンフレット、HP 活用、広報誌、報告書など）

学校支援地域組織ハンドブックをHP上に掲載し、各学校にも配付している。成人式には学生ボランティアを募集する旨のチラシを配付し、呼びかけを行っている。

◆コーディネーターの育成・交流の機会提供や学校に対する事業理解促進

月に一度、「学校支援コーディネーターミーティング」を開催し、コーディネーター一間の情報交換を行っている。また、その際に小・中学校の会議室等をお借りし、各校の校長・副校長と意見交換、情報交換を行っている。

◆成果

平成28年度は13名のコーディネーターが延べ1883日活動を行った。

現在、市内2校がコミュニティ・スクールの指定を受けており、コーディネーターも学校運営協議会委員として会議に参加し、学校運営に関する熟議や情報交換を重ねている。地域と連携した体験型学習の支援はもちろん、昼休みを利用して学校に隣接している公園の落ち葉掃きといった学校周辺環境整備活動等、学校のニーズにあった活動を他の委員と考えながら行っている。

◆課題・展望

コーディネーター個人と各サポーターとのつながりになってしまっていること、児童や生徒と年の近い学生サポーターの確保が課題となっている。今後は、市内全校でコミュニティ・スクールを展開していくため、市全体でつながっていけるような仕組みを検討したい。